

PSH3 (警察犬足跡追及第3作業)

科目、配点 [120点満点]

A 服従作業 (50点)

| | | |
|-----|----------------------------|-------|
| 科目1 | 紐無脚側行進 (声符のみ) | (10点) |
| 科目2 | 常歩行進中の停座から遠隔指導による伏臥、立止及び招呼 | (10点) |
| 科目3 | ダンベル持来 (650g以上) | (10点) |
| 科目4 | 休止 (5分) | (10点) |
| 科目5 | 立止時の銃声テスト及び対人態度 | (10点) |

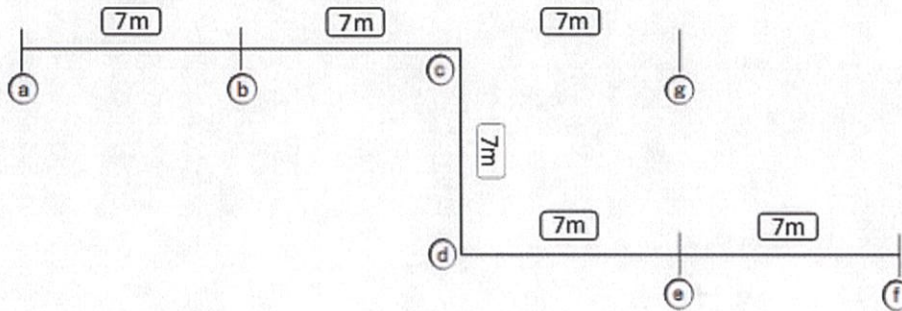
B 第三者印跡による全長350歩の足跡追及作業 (70点)

| | | |
|---|---------------|-------|
| 1 | 出発点での犬の臭気採取態度 | (5点) |
| 2 | コース全般の追及態度 | (50点) |
| 3 | 第1遺留物品の発見態度 | (5点) |
| 4 | 第2遺留物品の発見態度 | (5点) |
| 5 | 最終遺留物品の発見態度 | (5点) |

実施要領

A 服従作業

コース図



科目1 紐無脚側行進 (声符のみ)

声符 「アトへ」×9 (出発、コーナー×4、回転×2、反転、終点)、「スワレ」

①点で紐無し(紐は指導手の肩に掛ける。)で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、②点で左回転し(指導手は直径50cm以下で回転する。)、引き続き常歩で③点で右折した地点から緩歩で④点に進み左折した地点から常歩で⑤点で右回転し(指導手は直径50cm以下で回転する。)、引き続き常歩で⑥点まで進み反転し、止まることなく速歩で⑦点で右折、⑧点で左折し、⑨点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目2 常歩行進中の停座から遠隔の伏臥、立止及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「フセ」、「タツテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「フセ」、「タツテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、②点で指導手は歩度を変えることなく犬に停座を命じ、振り返ることなく③点まで進み犬と対面する。審査員の指示により遠隔指導で犬を伏臥させ、審査員の指示により遠隔指導で立止させる。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により①点に戻る。

科目3 ダンベル持来 (650g以上)

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モツテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」

対面停座の場合 「マテ」、「モツテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち①点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上上げる。ダンベルを投げるとき指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。10秒後、審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを咥えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は、審査員の指示により脚側停座させる。

科目4 休止（5分）

声視符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」

所定の地点で紐無し（紐は指導手の肩に掛ける。）で脚側停座させ、審査員の指示により犬に休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ、指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

科目5 立止時の銃声テスト及び対人態度

所定の地点で紐付きで立止を命じ、指導手は犬の体に触れることなく側に立つ、約10m離れた地点でピストル（陸上競技のスタート用）を発砲し、音響に対する態度を見る。1回で判定困難な場合は再度発砲する。対人態度等は、審査員が立止している犬の近くに寄り、指導手と話をするなどしながら犬の態度を観察する。

B 第三者印跡による全長350歩の足跡追及作業

日本訓練チャンピオン決定競技会に準ずる。